



外国出張報告書

平成 27 年 6 月 24 日

1. 出張国名 ラオス
2. 出張月 平成 27 年 5～6 月
3. 出張目的 雨季初期の土壌水分・地下水変動観測、水稲・陸稲組合せ試験（陸稲播種）、インドシナ農山村プロ・ワークショップ開催・参加：C

4. 成果の概要

研究サイトであるナムアン村において、乾季～雨季の土壌水分変化と初期用水量把握のための観測を実施した。その結果、水田の土壌水分は、4～5月の降雨により圃場容水量前後の水分量に達することが示唆された。サワナケート県のクッキー村では、陸稲と水稲を組合せた栽培試験を開始し、陸稲の播種を完了した。乾季水田畑作試験で収穫したダイズ、トウモロコシの収量評価を行い、灌漑条件下で栽培したダイズは昨年度の天水栽培の収量を上回ったものの、依然ラオスの平均収量に達しておらず、浸透損失による根群域への給水不足がその原因であると推定された。6月4日にビエンチャンで開催した JIRCAS-NAFRI（ラオス国立農林研究所）の合同ワークショップの開催準備・調整を担当するとともに、ワークショップにおいて水田の水利用に関する成果発表を行った。